

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	07	01	02	174120	商店街賑わい再生戦略事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-3	商業の振興			
	施策	1	商業形態の多様化			
目的	商業形態の多様化に向けた自立的な取り組みへの支援					
対象	商店街団体					
意図	商店街等のイベント支援や未利用店舗活用への支援により商店街の賑わい創出を図る					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○商店街賑わい再生戦略事業補助 625千円 商店街への誘客や未利用店舗の活用等、賑わいの創出を支援 (石鳥谷中央通り商店街振興会 平成27年10月1日補助開始)						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	商業形態の多様化に向けた自立的な取り組み件数	件	計画	1	1	
			実績	1	1	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	石鳥谷中央通り商店街振興会【小さな百貨店ぶらっと】利用客数	人	目標	15,000	16,000	
			実績	15,121	13,080	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	○ 目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
当該事業により、イベントが定着し、一定の来街者が見受けられるようになった。 29年度の利用客数は、スタッフの体調不良等により開店日数が例年より少なくなってしまったことに伴い減少することとなった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	買い物困難者対策等が求められている中、会話をしながら買い物の出来る商店街の役割は、今後も重要となる。市として、市民の生活を確保する義務があることから、公共関与に妥当性があると言える。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	買い物客数が減少する中、いかに来場者を増やすかが求められている。イベント事業により商店街を知ってもらう取組みが行われているが、継続的な来街者を商店街呼び込む新たな取組みを行うことにより、向上余地がある。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	当該事業は、商店街団体が自ら自立的な取組みを行うことを想定しており、新たな立案に対して常に対応出来る予算の確保が必要となることから、削減する余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	石鳥谷中央通り商店街を対象とした事業であるため、受益機会は公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
利用者から必要とされる商品の仕入れや定期的なイベントの開催により、一定の売り上げと集客数について成果があった。 しかしながら、未だ収益が出るレベルに達することができないため、実施団体から、収益目的ではなく、市民の憩いの場として未利用店舗の活用していきたいとの意向があったことから、本事業については29年度で終了とする。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 商工観光部 課名 商工労政課 担当係長 鎌田 博之 内線 389

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	02	174120	商店街賑わい再生戦略事業

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,208	625		△ 583
財 源 内 訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	1,208	625		△ 583

※特定財源の内訳

--

事業期間	<input type="radio"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-----------------------------	-------------------------------	-----------------

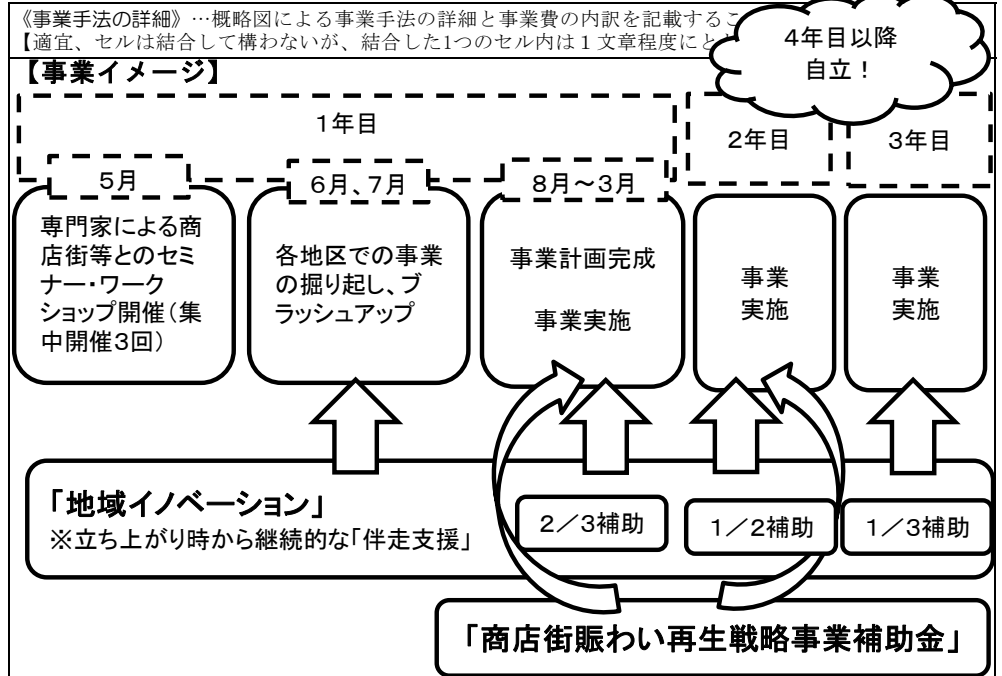
部重点施策における目標
商業機能を充実し、人とモノの流れを活発にします。

事業開始の背景・経緯
中心商店街の未利用店舗を活用し、商店街の賑わいを創出するとともに、高齢者等の拠り所となる場所を提供するために設置。

事業概要
○商店街賑わい再生戦略事業補助 625千円
商店街への誘客や未利用店舗の活用等、賑わいの創出を支援
(石鳥谷中央通り商店街振興会 平成27年10月1日補助開始)

意見・要望等の状況(市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等)
実施団体より29年度にて本事業終了の意向を受けている。

(単位：千円)



①商店街賑わい再生戦略事業補助金 625千円

(継続分) 石鳥谷中央通り商店街振興会 事業開始 平成27年10月1日
2年目分 375千円 (1,500千円×1/2×0.5) + 3年目分 250千円 (1,500千円×1/3×0.5)

【事業内容】
石鳥谷中央通り商店街の中心地に未利用店舗を利用し、買物弱者をはじめ、老若男女が一つの店舗で安心して買い物ができる、また、高齢者等の拠りどころとして集える場所として「小さな百貨店ぶらっと」を開設、運営している。
そのほか、振興会会員や近隣事業所の商品を取り扱い、商店街の個展の売上増や情報発信の場所としても機能している。
地域おこし協力隊もイベント時に支援している。